令和２年４月９日発行

四中だより

武蔵野市立第四中学校 学校だより４月号
URL = http://dai4-jh.musashino-city.ed.jp

「令和２年度のスタートにあたり」

校長　竹山 正弘

温かい日差しが眩しく感じられる季節になってきました。例年より早く桜も満開となり、様々な花々が清々しい気持ちにさせてくれています。昨年度末からの新型コロナウイルス感染症対策等におきましては、生徒の皆さんをはじめ保護者・地域の皆様方には、不自由な思いやご心配等をおかけしております。しかし、そうした重苦しい社会情勢の中にあっても、人としてお互いを気遣い支え合う数々の話題には、心を動かされます。

さて、新年度を迎えるこの時期になると、初めて第四中学校に足を踏み入れた際に、四中生の皆さんが爽やかなあいさつで迎えてくれて、とても感動したことを思い出します。

歴代の生徒会が受け継いできている“あいさつ五ヵ条”には、人として大切にしなければならない精神が凝縮されていると思います。お互いの存在を認め合う「あいさつ」は、“多様な価値観をもった人々の様々な垣根を越え、共に生きることの第一歩である”ということを教えてくれています。

この“あいさつ五ヵ条”は、第四中学校の宝物の１つだと思います。

《 第四中学校生徒会 あいさつ五ヵ条 》
一　自分から　進んで
二　いつでも　誰にでも
三　笑顔で　さわやかに
四　大きな声で　明るく
五　相手の目を見て　気持ちよく
「この五ヵ条を全校生徒が心がけて
あいさつの輪を広げよう」

先月の卒業式の式辞で、次のような内容を話しました。

『世の中は、私たちの想像よりもはるかに早いスピードで変化し、対応が求められています。グローバル化の進展や人工知能の発展がもたらす技術革新、そのことによる社会構造の大きな変化が想定されています。それは、現在の地球規模の環境問題や経済問題等への課題に正対し、持続可能な開発目標(SDGｓ)の確実な目標達成を目指すべきものでもあります。アフガニスタンでの緑地事業に尽くした中村　哲さんの言葉に「地元の人が何を求めているのか、そのために何ができるのか、生活習慣や文化を含めて理解していかないといけない。難民向けの医療協力は各国から来ています。でも、押し付けだけでは失敗します。」とあります。そうした先人の遺志や、ノーベル化学賞を受賞した吉野　彰さんのような研究者の、人類の英知の結集が、豊かな未来への扉を叩いているのだと思います。そして、本日卒業していく皆さんの活躍に、明るい未来が託されています。

今後どの様な時代にあっても、これまで本校で身に付けた、広い視野で考え創造していく力、コミュニケーションによる相互理解と協調性、そして思いやりを基にすれば必ずや道は開けます。どうぞ自分の力を信じて、これからの新しい生活に向かってください。』

４月７日の入学式では、新入生 168 名を迎え全校生徒 476 名で令和２年度のスタートを切りました。第四中学校は、保護者・地域の皆々様からの並々ならぬご支援を賜る中ですばらしい歴史と伝統が創り上げられ、今日があると確信しております。教職員が一丸となり、生徒・保護者・地域の方々とともに「力を合わせ、励まし合い」ながら、伝統の継承と新たな創造を目指し、更なる高みへと邁進して参る所存です。皆様のご支援とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。